

首都圏段戸会 会報

平成29年9月
第40号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
村木 央明
編集発行人
広報担当
織田 利彦

新会長挨拶

首都圏段戸会会長

村木 央明 (高19回)

昨年の総会にて、四年間に亘り会の発展にご尽力頂きました野村親信前会長の後を引き継ぎ、首都圏段戸会会長を務めさせて頂くことになりました。今後とも宜しくお願いいたします。

前号の会報(第39号)1ページ掲載の「恩送り」第44回総会・懇親会報告」を読んで、私も共感するところ大でした。

執筆者の杉浦綾香さん(高60回)は、「恩送り(ベイ・フワード)」は、自分が受けた恩を、別の人に送ること」と説明しています。恩師や先輩から受けた恩を、後輩に返し、それを順繰りに送って行くことも、その一例です。

私は、「恩送り」の思いをもって、本会が、会員の皆さんにとって、より一層魅力的なものとなるよう、努めて参りたいと思います。

まず、本会のように幅広い年次の会員が集まる同窓会には、会員の多様な思いにシッカリと耳を傾けること、それに応えるための方策を各層間のバランスを取りながら進めること、この二つが大切と考えています。例えば、ここ数年の総会会場の設営や招聘恩師の推薦方法の変更などは、世話人会で、会員の皆さんの声を集め、改善案を持ち寄り、決めたものです。これからも、このような運営を続けたいと思います。

次に、会員が幅広い分野で活躍していることも本会の特徴です。多様な仕事や働き方をしている会員同士が交流できる場と機会を増やせたらと考えています。信頼できる仲間と色々な考え方や正確な情報などが交換できれば、会員にとって素晴らしい経験になることと思います。

野村会長の時に、本会の会長が岡崎高校同窓会の副会長を兼務することになり、同窓会役員の方や岡崎高校の先生方と直接お会いする機会が多くなりました。こ

れを機に両者の連携を更に深めることにしても、恩送りという視点から考えてみたいと思います。

話は変わりますが、本年5月に個人情報保護法が改正となり、小規模な同窓会も法規制の対象となりました。これに合わせて、本会も個人情報保護方針と個人情報利用目的を公表することとしました(詳細は、本号6ページを参照)。

会員の個人情報については、法改正前からも厳重に管理されていますし、これから厳重に管理して行きますので、その点をご安心下さい。

総会が近づいてきました。昨年、一人の出席者から「同じ高校に通っていたというだけで、驚くほど心の壁が取り除かれることが不思議だ。」との感想を頂きました。初めての方も是非総会にご出席下さい。

総会・懇親会にお早めにお越しください。

総会・懇親会の受付は、次の通り行われます。

(時間) 12:30~15:30

(場所) 最初は、「3階のエレベーター・ホール横」その後、頃合いを見計らって、「総会・懇親会の会場入口」に移動

受付の仕事は、世話人が分担して行っているのですが、受付担当の人達も、会員の皆さん同様に講演会や懇親会を楽しんでいます。このような事情をご賢察の上、できるだけ早い時間に(できれば13:30頃までに)受付をお済ませ頂けると助かります。

会員の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願いします。

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

<http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索

パソコンやスマートフォンが不得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています!

「段戸囲碁会」

(幹事: 藤田 訓弘 高13回) kufujita@muc.biglobe.ne.jp
※本号5ページに活動報告が掲載されています。

「段戸音楽会」

(幹事: 石川 航己 高58回) koki.ishikawa.49@gmail.com

「段戸句会」

(幹事: 小森 蓑子 高13回) shigeko_komori@ybb.ne.jp

「段戸山の会」

(幹事: 満江 信之 高15回) nmitsue@ae.auone-net.jp

第45回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日 時 平成29年10月28日（土）13：00～16：40

●場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）（右地図参照）
千代田区九段下北4-2-25（TEL 03-3261-9921）
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）
から徒歩2分



●講演会 レクチャーコンサート 「合唱音楽の魅力と奏でる喜び」

岡崎高校は全国にその名を馳せるコーラス部を擁し、同窓生から多くの音楽家を輩出しています。今回は同窓生音楽家の一人である作曲家・桃井聖司氏と、岡崎混声合唱団東京支部のコラボレーションによるレクチャーコンサートを企画しました。桃井氏をはじめ同窓生の作曲家5人の作品を演奏し、合唱の魅力とは何か、音楽を奏でる喜びとは何かを皆さんに体感していただきます。

<出演>

講演・指揮・ピアノ：桃井 聖司（高38回）、合唱：岡崎混声合唱団 東京支部

<客演（予定）>

指揮：苔米地 英一（高48回）、サクソフォン：柳下 柚子（高64回）

（略歴）

桃井聖司

岡崎高校から愛知県立芸術大学に進み作曲を専攻。映画、ゲーム、ミュージカルをはじめ、多岐に渡る分野の音楽を作曲する一方、編曲・指揮・ピアノ演奏でも活動。近年は舞台芸術作品の創作上演に力を注ぎ、代表作「音楽劇「銀河鉄道の夜」」が、東京、岡崎、名古屋、博多など各地で上演。

岡崎混声合唱団東京支部

1979年、前身である「岡崎高校コーラス部OB合唱団」を結成。以来近藤恵子先生を常任指揮者として合唱活動を継続し、1999年に団名を「岡崎混声合唱団」に改称。東京支部は同合唱団の首都圏在住メンバーにより構成されている。

●会 費 男 性 8,000円 女 性 6,000円

ただし、以下の会員には特別割引があります。

古稀を過ぎた会員（高17回以前）	5,000円
若手会員（高55回以降）	5,000円
学生会員（高55回以降の大学、大学院、専門学校等の学生）	1,000円

●ご 招 待 古稀年次（高18回）の方は、ご招待申し上げます。（会費無料）

●招聘恩師（予定：敬称略）

永田(大岩) 典子（英語） 藤原 肇（社会） 川喜田 隆司（理科） 鈴木 弓子（数学）

人生お楽しみ中！

エンジョイ里山暮らし

高20回 安藤 進

定年退職前から計画していた田舎暮らしを始めて8年目。浦安にいる家族と離れ、南房総の里山で150坪の畑と250坪の庭を遊び場として気ままな単身生活を送っています。時間がたっぷりあるので、不便さを楽しみ、ゆっくりと物事を進めるようにしています。野菜は年間80種類以上を種から育て、発芽から収穫までの過程を楽しんでいます。庭にはタラの芽、ワラビ、ゼンマイ、ウド、明日葉など食用山野草や柿、桃、ミカン、アケビ、木イチゴなどの果樹、野生ランのエビネ、富貴蘭、春蘭などを育てています。地元の人たちとの交流も楽しみの一つです。ハイキングクラブに入り、昨年は24回山登りをしました。地元の山はもちろん3000メートル級の南アルプス仙丈ヶ岳、伊豆大島の三原山にも遠征してきました。山仲間ほとんどが農家、酪農家で、出荷できない生産物をいただくことがあります。ピワ、椎茸は数百個単位、牛乳はバケツで、イノシシ肉は丸ごと1頭など。処分に困ってしまいますが、自宅や友人などに宅配して喜ばれています。

しかし、苦労もあります。農作物、果実をはじめ、池の金魚なども害獣、害鳥の攻撃に耐えなければなりません。芋

類・枝豆などはイノシシの標的に、金魚・メダカはサギ・蛇に、イチゴ・落花生はウサギに、スイカ・トウモロコシはカラスなど、野菜は無農薬栽培のため害虫の攻撃がすさまじく油断も隙もありません。夏は害虫退治に明け暮れています。最後に、これから田舎暮らしをと考えている方へ。せっかく新鮮な食材が手に入るわけですので、おいしく食すために料理の基礎を身につけて、和洋中華など幅広いレパートリーを持ちたいものです。私は手作りにこだわり、パン、納豆、ハム、コンニャク、どぶろく、ヨーグルト、燻製なども作っています。なお、虫の嫌いな方は覚悟しておいてください。ムカデ、クモ、毛虫もたくさんいます。それでも楽しいことのほうが多いと思います。皆さん田舎暮らしに挑戦してみてくださいか。



南房総の里山にて

フラに出会って

高22回 上田 洋子

主婦に定年はないけれど五十を過ぎた頃、心境の変化があった。肩の荷が下りた感じだろうか？ 手始めにスポーツクラブに入会した。ストレッチをしながら横目で気になるのは、華やかなスカートの揺れるフラのクラスだ。ここでの出会いが幸運で、今も一緒に踊る長い付き合いの仲間が出来、ハワイのクム（先生）にも繋がる今の先生に辿り着いた。正統派のフラを学ぶ月日は、早、十年を越えた。

フラは文字を持たなかったハワイの人々が伝承手段として編み出した言わば手話だが、ステップが重要だ。左右に滑らかに体重移動をし、たつぷりと腰を揺らす。ピョコピョコせず、上体は固定だ。これが相当難しい。恥を掻きながらも挫けず続けたのは「水中を揺れるような感覚が好きだから」と仲間のお陰。部活動さながらの団体行動は退屈することが無く、気持ちを合わせて踊る心地よさは格別だ。

発表会では、会場への出動段階から盛り上がる。旅の一座宜しく大荷物と車にひしめき合つての道中だ。「沢山踊った方が楽しいでしょう？」と出番はふんだんで、楽屋裏を音もなく疾走し、段取り良く早替えだ。緊張する暇も、ミスにがっかりしている余地も無い。幸い、客席は家族や知り合いばかりで反応も温かい。上機嫌のクムが踊り出せば最高の締め

め括りとなる。

もう一つ、「一生の宝」となった大イペントがハワイ島研修だ。地所の中に滝や墓標、小さな教会もあるクム一族のお宅に分宿し、夜明けと共に、海まで続く庭園でレイのための花摘みをする。日中はクムの解説付きで歌の舞台を訪ね、三夜連続で最高峰の踊りも満喫した。「本物」にどっぷり浸かった非日常、フラの世界だ。五感で体感したものは財産となる。音楽に乗せて花の香りや波の音、風、何よりアロハスピリットを伝えられたらと思う。

フラの曲には時々お婆ちゃんも登場して面白い。長く続けるためスクワットをし、たまたまだがピアノも始めた。フラが踊れてピアノも弾けるお婆ちゃんが目標だ。意外だが、ピアノでも「体重移動」と「気持ち」と言われ、嬉しくなった。相乗効果を期待したい。



フラの発表会にて

なぜこの仕事を？ ― 音楽の巻

高48回 苦米地 英一

2016年に初めてイタリアの歌劇場でオペラを指揮しました。演目はヴェルディ作曲の「アイーダ」。作曲家の生まれ故郷ブッセートの歌劇場での公演で、それがきっかけで2017年6月にもイタリアでヴェルディやプッチーニのオペラを指揮することになりました。

私が音楽家を目指すそうと思い始めたのは、高校3年生の時です。当時吹奏楽部では通常2年生の夏のコンクールと共に引退のところ3年生まで続け、その頃から音楽家を目指すと思い始めるようになりました。

その時指導に来て下さっていたOBの先輩に「音楽家になりたい」と相談したところ、これから音大を目指すのは難しいと言われ、まずは東京の大学へ通いながら和声やピアノを習い、大学3年次の時に同じ大学の中にある音楽科へ編入しました。

音楽科へ編入して間もなくオペラの仕事に携わるようになりましたが、当時まだ音楽を勉強し始めたばかりで、オペラを見たこともなく、何百ページにもわたる膨大な楽譜を読んだり歌詞の意味を調べるのに苦労しましたが、それでもその時初めて出会ったプッチーニのオペラ「蝶々夫人」の、言葉や情景と結びついた音楽の美しさに惹かれ、オペラ指揮者として、この仕事に携わりたいと思うようになりました。

オペラを指揮する時はいつも全ての歌

のパートを歌えるようにしています。歌手とリハーサルをする際、実際に歌って説明することで、歌いまわしや発音、言葉の繊細なニュアンスなどの圧倒的な情報に瞬時に伝わり、またオーケストラのリハーサルの時も、歌いながら指揮することで、音楽の流れや歌の呼吸、間合い等を伝えることが出来るからです。

オペラは音楽以外にも舞台セットや衣装、照明をはじめ様々な分野の緻密な連携プレーにおいて成り立っています。その全てに生身の人間が関わっていますので、上演中のハプニングや、ちょっとした温度や湿度変化によって声の調子が変わるため、テンポや間合いをうまく調整して対応していく必要もあります。

そうしたコンマ何秒の瞬時の状況判断の連続がオペラの指揮であり、求められる音楽性はもちろん、集中力や精神力も並大抵のものではありませんが、それでも劇場から満面の笑みを浮かべたお客さんたちが帰っていく姿を見れば、これほどやりがいのある仕事はありません。

オペラの本場イタリアで運良く仕事をスタートさせることが出来た今、その本場のスタイルを学び、日本にも適したオペラ環境を作り上げていきたい、というのが私のこれからの夢であり目標です。



イタリア マジェンタ歌劇場にて

高57回 原 彩子

私は大学卒業後劇団四季に入団、俳優（シンガー）として活動しておりました。大学生の頃に同劇団の「ウィキッド」という作品を観て大きな衝撃を受け、「私もあの舞台上に立ちたい！」と就職活動と並行してオーディションを受けました。合格通知が届いた時は、思わず叫んでしまっ程嬉しかったのを今でも覚えています。

しかし入団するとすぐ、華やかな舞台からは想像もつかなかった厳しい現実に直面しました。『観る天国、やる地獄』（舞台は観客は天国だが演者は地獄）。演出家・浅利慶太先生の言葉が大きく壁に貼られている稽古場で、朝からバレエやジャズ、呼吸法のレッスンを受けるのは個室に籠り夜まで課題曲の自主練習。そんな毎日を繰り返し半年が経った頃、やっと一人ずつ演目にキャスティングされ始めました。

演出家による抜き打ちオーディションもよく開催されました。オーディションといっても失敗するとその場で首になっってしまうこともあり、大きな役を得るチャンスである反面、かなりの覚悟が必要でした。今思えば、このシステムにより、劇団員は常に最高のパフォーマンスが出来る状態であったのかも知れません。

このような関門をなんとか潜り抜け、入団二年目に自分の夢であった「ウィキッド」の名古屋公演にキャスティングされました。歌は勿論、ダンサー並みに踊る役を頂き、飲み込みの遅い私は毎日深夜まで稽古場に就いて猛練習。先輩からの厳しいアドバイスも沢山浴びました

が、夢を掴むチャンスが目の前まできている私の心は常に前を向いていました。

一ヶ月半の稽古期間を経てついに初日を迎え、不安と興奮の中やっとの思いで役を演じられました。演じている間は頭が真っ白でしたが、カーテンコールで舞台上から見た満員のスタンディングオベーションは今でも胸に焼き付いています。ずっと憧れ続けた舞台に今自分が立っているという感動で胸が熱くなり「夢を叶えたんだ！」と強く感じました。

俳優の仕事は、舞台の煌びやかさとは反対の地味で厳しく苦しい世界です。好きなことが仕事になるとは最大の趣味を失ったような感覚でもあります。しかし音楽や芝居を通して作品の感動を創り上げ、お客様と共有できた時の感動や、お客様の拍手、笑顔の温かさには計り知れないほどの喜びと感謝の気持ちで満たされると実感しました。私自身、劇団四季での経験は人生の大きな糧となり、これを原動力に今は「子供達に音楽の喜びを伝える」という新しい夢に向かって邁進しております。



現在も育児の合間、コンサートで歌っています

同期の仲間

高17回 武藤 隆子

私たち17回生は、昨年古希を迎えました。いつもはあまり歳のことは考えませんが、古希の色々な集まりで（岡崎であつた同年会には百名以上集まりました）否応なく歳を意識した1年でした。気分は若いつもりでも、古希というだけで高齢者の仲間入りをしたようで、休まで今までは違ってきたような気分になりました。

17回生は首都圏で30年ほど前から毎年同年会をやっています。（岡崎方面から

の参加者もいます）。初めは40名ほど、最近では20名弱集まっています。集まった中から翌年の幹事を男女1名ずつ選び企画してもらい、出席者がいなければ2人でデイト（？）という事になっています。だいたい幹事の決めた会場で食事と飲み物、近況報告、おしゃべり、2次会という流れ。今までは東京湾クルーズ、はとバスでの都内巡り、小石川植物園散策、カラオケなどもありました。会った初めは皆それなりの歳になった！と思います。話をしているうちに高校時代の顔が浮かび、いっしょ気分は高校生。歳を忘れて楽しい時間を過ごしています。初めの頃は毎年やる必要は無いのと思っていたのですが、今では、来年また元気で会える様に……と毎年の開催が大切になっています。同年会の他にもゴルフの会、花を愛でるの散策、食事会など小グループの集まりもあります。こういう会があるのは高校時代、皆結構仲が良くまとまっていたからかな？と思っています。歳を重ねたら家にもわざわざ外に出て皆と話し、笑い、時々は頭を使ひ、歳を忘れて過ごすのが良いといわれています。わたしにとっては年数回の同期生の集まりは気持ちの若返りの機会。愉快な友のお蔭で若い気分、楽しい気分で過ごしています。これからも同期の仲間皆元気で、この集まりを続けていけたらと思っています。

は、来年また元気で会える様に……と毎年の開催が大切になっています。同年会の他にもゴルフの会、花を愛でるの散策、食事会など小グループの集まりもあります。こういう会があるのは高校時代、皆結構仲が良くまとまっていたからかな？と思っています。歳を重ねたら家にもわざわざ外に出て皆と話し、笑い、時々は頭を使ひ、歳を忘れて過ごすのが良いといわれています。わたしにとっては年数回の同期生の集まりは気持ちの若返りの機会。愉快な友のお蔭で若い気分、楽しい気分で過ごしています。これからも同期の仲間皆元気で、この集まりを続けていけたらと思っています。



高17回同年会にて（筆者は前列左から2人目）

段戸サークル活動報告

「段戸囲碁会」のご紹介

高13回 藤田 訓弘

「囲碁の歴史」

囲碁は紀元前に中国で発明され、発展し、日本には大宝律令（701年）に碁に関することが出てくるそうですから日本へ入ってきたのはかなり早いと思われる。戦国時代、織田信長は日海（本因坊算砂）に名人位を授与し、我々が英雄徳川家康も算砂に手ほどきを受け、五段の腕前だったとのこと。

「現在の囲碁界」

平成28年、弱冠26才の井山裕太が史上初めて七冠（棋聖、十段、本因坊、碁聖名人、王座、天元）達成したこと、村川大介、伊田篤史、一力遼という10代、20代の棋士が日本のトッププロとして活躍し出したこと、最近ではIT技術が発達し、アルファ碁という囲碁ソフトが韓国の世界No.1プロ棋士を負かすということで話題になったのも記憶に新しいところです。

「段戸囲碁会」

段戸サークルでは最も古い「段戸囲碁会」は、第1回生（87歳）～第32回生（56歳）までの会員約20名がおり、棋力も3級から九段まで多士済々です。10年前から時習館高校OBと年2回対抗親善試合を開催、これまでの戦績は岡高の13勝6敗1分です。

「三味線あり、はやきあり、怒り無し」のルールでやっていますので、豊橋と岡崎の「まるで三河弁東西対抗戦」の様相を呈し、終了後の懇親会を含め毎回和気藹々のひと時を過ごしています。岡高だけでなく他校に友人・知人の輪が広

がり、充実した日々を皆さん送っています。『岡目八目』、『一目を置く』、『駄目』、『布石』、『定石』、『捨て石』、『死活問題』、『大局観』、『目算』等々、日常良く使うこれらの言葉は、全て「囲碁用語」です。

これからお解り頂けるかと思いますが、「囲碁を学ぶことにより、教養も身に付き、且つ、何より品格を重要視します」ので、昔から武士の嗜みとして必携とされています。また、頭を使うので、「ボケ防止に最適な趣味」とも言われています。

名大工学部機械学科同窓会「東山会」関東支部の囲碁同好会「東山会関東囲碁会」が毎月第一日曜日午後12時に学士会館で開催され、それに段戸囲碁会メンバーも参加し、棋力アップに研鑽しています。初心者大歓迎です。ご興味のある方は、左記宛てにいつでも気軽にご連絡下さい。

連絡先：藤田訓弘（高13回）

TEL：090-4733-4638

Eメール：kfujita@muc.biglobe.ne.jp



囲碁会の懇親会（筆者は右側の一番前）

首都圏段戸会における個人情報保護対応について

首都圏段戸会では、個人情報保護の観点から以前より取扱う個人情報について厳格に管理しておりますが、本年5月より改正個人情報保護法が全面施行されましたことを受け、世話人会にてあらためて「個人情報保護方針」を策定するとともに、個人情報の「利用目的」を再確認いたしました。今後はこれらの方針や目的を段戸会ホームページのわかりやすいところに掲示するとともに、これに則った運営を推進いたします。またこれに関連し、当会の会則の改訂を本年開催予定の総会に提案いたします。

●個人情報保護方針

1. 首都圏段戸会（以下「本会」という。）は、個人情報保護に関する法律を遵守します。
2. 本会は、個人情報の利用目的を公表し、その利用目的の範囲内に限り個人情報を利用します。
3. 本会は、本人の同意を得ることなく個人情報を第三者に提供しません。
4. 本会は、取得した個人情報の正確性を保つとともに、適切な安全対策を講じます。また委託先も含めた個人情報の適切な取り扱いに努めます。
5. 本会は、会員から、個人情報の開示、訂正若しくは利用停止の申し出、又は苦情を受けたときは、合理的な範囲で適切かつ速やかに対応いたします。

●個人情報の利用目的

- (1) 会員名簿の発行、頒布
- (2) 会報等出版物の配布
- (3) 総会の開催及び運営
- (4) 段戸フォーラム、段戸サークルなどの本会における会員活動の支援
- (5) 総会会費、運営協力金の収受管理

“名簿”に関するこれまでの具体的な事例！

☞ 本会では会員全体の名簿は配布しておりませんが、会報及びホームページに掲載する総会出席者一覧および運営協力金協力者芳名などがあります。また総会で配布する総会出席者名簿なども該当します。尚、ホームページでの名簿公開などは今後制限をかけることを検討します。

●会則の改訂（案） 以下の条文を第11条として現在の会則に追加いたします。

<個人情報保護>

第11条 本会は、個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護方針を定める。

2. 本会が取得・保有する個人情報は、公表する利用目的以外の目的で利用しない。
3. 会長を個人情報管理責任者とし、会長及び会長が役員の中から指名する個人情報管理者は、会員の個人情報データベースの安全管理に努めるものとする。
4. 会員から本人の個人情報について、開示、訂正若しくは利用停止の申し出、または苦情があった場合は、合理的な範囲で適切かつ速やかに対応するものとする。

ここでクエスチョン!! 個人情報とは

☞ 生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日、メールアドレス、顔写真など特定の個人を識別することができるものをいいます。また、他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができるものを含みます。

編集後記

本号から会報編集を担当させていただきます。これまで仕事柄、時折執筆を頼まれることがありますが、逆の立場で執筆をお願いすることは滅多にありませんでした。ただ一度だけ、ある図書について専門外にもかかわらず、その一部の監修を依頼され、断るわけにもいかず、執筆者の選定から原稿校正まで二年がかりとなったことがあります。このときばかりは周囲の方々にさんざん迷惑をかけながらも助けられ、一方でトラブルに見舞われることもあり、汗と涙の連続で、世の中に出たときはご協力いただいた皆さんに心から感謝いたしました。今後、会報の企画から始まり、発行までの役割を担うことになりましたが、広報のメンバーの方々とともに汗をかきながら、達成感や感動を共有したいと思います。

運営協力金のお願い

平素から首都圏段戸会の活動にご理解、ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

首都圏段戸会は、回を重ね本年第45回総会を迎えることになりました。前回総会では、中47回から高65回の皆さん約220名にご参加頂きました。これもひとえに会員の皆様の温かいご支援の賜物と、心より感謝しております。

本会の特徴は、岡崎高校の長い歴史を活かし、首都圏在住の大学生、現役社会人、さらに定年退職者と幅広い年次の会員が集まり、総会に加え、各種イベントの開催やサークル活動を行っていることです。

たとえば、現役岡高生との交流を目指したイベント「オープンキャンパス」では、学生会員の大学生が主体となって、大学、研究室の見学、先輩の大学生・教員との懇談などを行っています。岡高生には単なる受験対象として捉えていた大学で、「何をしたいか？」について考える機会を得られたと好評です。

また、学界、官界、産業界、法曹界、政界など各分野で活躍されている会員を講師に招いた「段戸フォーラム」、さらに音楽、俳句、山登り、囲碁の同好の集まり「段戸サークル」があります。いずれも幅広い会員の交流の場となっています。

また、こうした活動は、年2回（春・秋）発行する「会報」、最新ニュースは「ホームページ」を通して、皆さんへお伝えしています。

このような諸活動は、各年次から選ばれた80名ほどの「世話人のボランティア」と、会員の皆様からの「運営協力金」のご支援とによって支えられています。

これからも、人間的な手作りの感触を大切に、同窓の皆さんが安心して集まれるよう、会の運営に努めてゆく所存であります。つきましては、首都圏段戸会の諸活動を益々充実したものにするためこれまで以上に幅広く、多くの会員の皆様から運営協力金のご支援を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔運営協力金の主な用途〕

会報の印刷・郵送費用、世話人会費用、ホームページ運営費用、オープンキャンパス費用 等

平成29年 首都圏段戸会 世話人名簿

(高2回) 服部 登
(高3回) 丹羽 鼎
(高6回) 有馬 弘政
(高7回) 是津 定利
(高8回) 杉浦 嘉久
田中 厚生 広報
(高9回) 岡田 敏夫
(高10回) 宇佐美 忠利
(高11回) 太田 栄之
永田 宏
(高12回) 鶴田 文男
成瀬 徹
(高13回) 中 浩之
(高14回) 磯尾 進
水谷 鏡子
(高15回) 神谷 国広
満江 信之
(高16回) 横井 昭親
(高17回) 伊與田 正彦
山田 博子
(高18回) 伊藤 博邦
音部 昌宏
清水 久雄
山内 恵
(高19回) 都築 正行 会計

福山 透 情報
村木 央明 会長・広報
(高20回) 天野 隆太郎 企画
辻村 貴典 会計監査
(高21回) 小栗 恵子
山田 俊文
(高22回) 上田 洋子 副会長・書記
中村 賢治
(高23回) 野々山 浩 会計
(高25回) 戸田 譲三 会計監査
(高26回) 大山 幸信
織田 利彦 事務局長・企画・広報
(高27回) 長田 光雄 会計
岸 洋平 会計
山崎 正枝
(高28回) 酒井 邦彦
(高30回) 米津 智徳
(高31回) 高原 正之 企画
(高33回) 小出 一典
(高34回) 板谷 敏正 副事務局長・企画・情報
井上 由美子 副事務局長・企画
(高35回) 糸井 真由美
小川 美季 広報
菅 伸介 会員
(高36回) 平松 理生
(高38回) 内田 力

中西 和幸 企画
(高40回) 大田 武 会計
(高41回) 中鉢 朋子 書記
(高42回) 長野 麻子 広報
(高44回) 松尾 直樹 企画
(高45回) 筒井 貴之 情報
西浦 瑞恵
(高46回) 朝岡 大輔
大川 博 広報
(高47回) 杉本 いづみ 会員
(高50回) 鳥居 福代 情報
(高52回) 近藤 佳子 広報
清水 雄太 情報
(高53回) 石井 貴大
辻内 直子
(高54回) 安藤 康伸
岡田 尚博
加藤 直也 広報
(高57回) 川口 敦子
(高58回) 石川 航己 企画
鳥山 順丘
(高59回) 嶋田 亘
(高60回) 本多 健太郎
(高61回) 中原 槇子
(高62回) 栗津 文香
(高63回) 吉兼 峻史

(賛助法人)	スタートコーポレーション株式会社 田辺総合法律事務所 税理士法人みらいパートナーズ 岡崎信用金庫				
(岡高同窓会会長)	古澤 武雄				
(岡高校長)	杉浦 慶一郎				
(岡高同窓会幹事)	藤原 波一郎				
(中43回)	鷗野 庄二	森 秀夫			
(中49回)	神谷 隆二郎				
(高1・中50回)	太田 八雄	中山 川恵	照治 夫		
(高2・中51回)	石川 耕雄	今井 敏夫	樹彦 登		
	太田 賀久	佐藤 茂之			
(高3・併23回)	武三 弘正	次道 義之	芳枝 博代		
	阿加久 藤保	伊木 後高	藤村 三洋		
	左右田 健次	丹羽 井	一鼎 子		
(高4・併24回)	蜂須賀 勇日	成杉 瀬浦	榮正 二健		
(高5回)	鶴安 平有				
(高6回)	馬弘 福政	志高 大斎	純弘 通悦	子江 浩子	
(高7回)	杉川 藤津	衛利 子彦	子允 美		
	近藤 敬周	節子 久生			
(高8回)	吹森 田浦	小高 外村	勝道 巳人		
	内杉 田山				
(高9回)	石原 英司	岡金 小林	敏豊 孝宏	夫子 子子	
	片野 村木				
(高10回)	坂安 藤哲	安笹 鈴藤	登子 幸爾		
	宇佐 井目	山本 眞			
(高11回)	木田 永服	梅幸 中藤	村根 田崎	豊初 美義	子彦 淳穂
	本村 稻大	山岩 神後	谷藤 浦木	一信 孝宏	典詞 子明
(高12回)	立堤 鶴成	内吹 渡小	田中 眞	尚雅 捷	弘彦 昭子
	成星 新柴				
(高13回)					

(高23回)

仁允正紀治吾之 彰進二司幸修子子雄介 子枝 雄雄惠美親利彦雄男寬男子子 裕博一 紀雄江子子透明進昇敏徹則夫清 樹志子登門市 平孝子治子一子
忠康幸正昭源正 郊博忠 英紀元隆 良瑞 達貞弘里昭雅正邦康 幸伸隆 良孝孝 正德紀邦惠 央 光 雅土 茂仁惠 衛金 一美賢美嘉枝
浦木 坂実野多 野尾奈田澤瀬築井野野 藤田 山木木野井邊与津藤木尾本藤 見山木 瀬田内島竹山木藤藤野水田井吹 知駒栗田川田 下浦木村岡辺田利
杉鈴堤長新平本 天磯伊織金笹都長中牧 加鶴 大鈴鈴牧横渡伊河近鈴中橋武 大杉柵 岩坂竹中則福村安遠北清成細矢 阿生小德早矢 木杉鈴中藤渡小
秋洋也之直忠弘哉二道江一紱義子一子彦子夫郎健子義子信子夫裕熙雄子子子二子邦司人惠昭夫幸行一史兄郎子惠明高和子誠一男夫雄人治文子子雄子雄夫則
千雅浩 訓宏完輝澄秀 輝合謙綾勝鏡譽一 康隆惠親紀嘉 泰久寬榮房英博博正義 幸俊正信安収太さ 由和博秀知 純忠邦照正幸俊洋純龍さ章和和
道原淵 山田田木部河村垂原田 藤塚島瀬谷宮慎 崎多口村木村山稻藤野林伯嶋野新家博博正義 幸俊正信安収太さ 由和博秀知 純忠邦照正幸俊洋純龍さ章和和
神杉田中原藤眞阿石磯岩笠条佐手中成水雨杉本大木鈴野丸早伊大小佐竹中東山伊佐竹山安香関都野福宮天伊神木関兵三吉足渥内清戸兵山上近鈴棚長藪畝

氏名不詳

山邦治宏幸	仲知俊洋龍	裕邦信壽穂英と	正雄友寿一	お岳和美宏峯	美禎俊昌泰理	和	繪朋崇洋雄	麻衣直充太義づ	周晋福雄直尚直矢	彩航和隆	莉禎																												
々田保林山柳浦口野	川本賀井坂野村川川林原丸内井出中	か	岳	山	上	木	田	井	川	谷	居	澤	山	松	田	野	西	田	鉢	本	田	元	尾	野	井	島	本	山	井	居	上	内	田	藤	田	川	田	田	原
高明小大畔杉山	天岸宮山	大酒長海木	西森小	高金堀	浅小田	松山	青井	鈴安石	小洪鳥	古塩平	内佐中	大	太	中	秋	生	前	里	松	牧	浅小	杉青	藤鳥	井	辻	岡	加小	原	石	澤	鶴	中	名						
浩夫男史信誠明子	康平也淳三	彦人美子一	み淳之一	二子典寿	り彦浩子	一次敦季	則一宏	聖生	力均幸	武里子	之平	介子樹	浩郎博	み平也	代	太	子博也	子子己	寛一	子子																			
本三岡戸	織杉日山	長杉山	太長	嶋小松	米杉野	原村小	鈴八山	吉板	神栢	糸金	萱花	鈴	小柴	桃小	杉嶋	長	平	大	酒	早	羽	清	服	加	川	鳥	嶋	本											
田浦田田田浦	高本田	浦崎	也	田坂	田洗井	津浦	村	松笠	木田	耕本	村裕	谷戸	植	井	澤	由	仲	紀	貴	哲	聖	邦	孝	直	麻	直	康	泰	雄	昌	真	敦	治	山	田	健	太	郎	
隆修弥讓利明克修光と	正	寸光	仲智章美え	幸原祐太	守美敏	伸千	由	美	傑	介	子	之	努	良	司	昭	明	哉	子	人	博	博	宏	弘	太	平	悟	子	子	亘									
広嗣生三彦夫二己	雄み枝	志司	薰健介	徳一紀	つ子誠	子郎正	子正	輔	明	美	傑	介	子	之	努	良	司	昭	明	哉	子	人	博	博	宏	弘	太	平	悟	子	子	亘							